

平成 12 年（2000 年）～平成 14 年（2002 年）

「大地に還る住宅」提案競技

受賞作品 73 の記録 / 応募総数 496

財団法人住宅産業研修財団は、平成 12 年～ 14 年の 3 年間、将来の循環型社会、持続可能な社会にふさわしい住宅、そして地域に根ざした住まいづくりへの関心を高めるため「大地に還る住宅」の提案競技を実施しました。
述べ 3 回（応募総数 496 + ?）（受賞総数 73）

第1回 「大地に還る住宅」設計提案競技

第1回 「大地に還る住宅」設計提案競技 受賞作品

最優秀賞・・・6点

賞	応募責任者氏名	所属	都道府県	タイトル
建設大臣賞	津端修一 (ツバタ シュウイチ)	チーム・風と土	愛知県	雑木林、クラインガルテン、それに丸太小屋を組合せた私たちの住まい
林野庁長官賞	中村茂史 (ナカムラ シゲフミ)	中村茂史 一級建築士事務所	兵庫県	杉の家
住宅金融公庫 総裁賞	都丸聡士 (トマル サトシ)	(株) 日建設計 東京本社 設計室	東京都	共に棲むために僕にできること
住宅産業研修財団 理事長賞	高田正己 (タカダ マサミ)	BOZZ (ボズ) 建築工房	茨城県	土と植物で造る風の家
日本住宅・ 木材技術センター 理事長賞	内田実成 (ウチダ ヨシナリ)	信州大学大学院 工学系研究科	長野県	空間のリターナブル ～木とともに住む～
日本環境財団 理事長賞	前谷久枝 (マエタニ ヒサエ)	(株) 前谷建築事 務所	大阪府	高齢化対応住宅

優秀賞・・・18点

賞	応募責任者氏名	所属	都道府県	タイトル
優 秀 賞	石井良平 (イシイ リョウヘイ)	石井良平建築研究所	大阪府	菜園と生きる家
	伊藤功一 (イトウ コウイチ)	大野建設 (株)	埼玉県	埼玉 (さきたま) 行田の家
	上井一哉 (ウエイ カズヤ)	積水ハウス (株) 東京設計センター	東京都	共働住宅のススメ
	大角雄三 (オオスミ ユウゾウ)	大角雄三設計室	岡山県	過去と現在の連結 ～ 朽ちようとしている農家の 再生 ～
	黒岩哲彦 (クロイワ アキヒコ)	(株) 黒岩哲彦 都市建築設 計室	東京都	涼の家

第1回

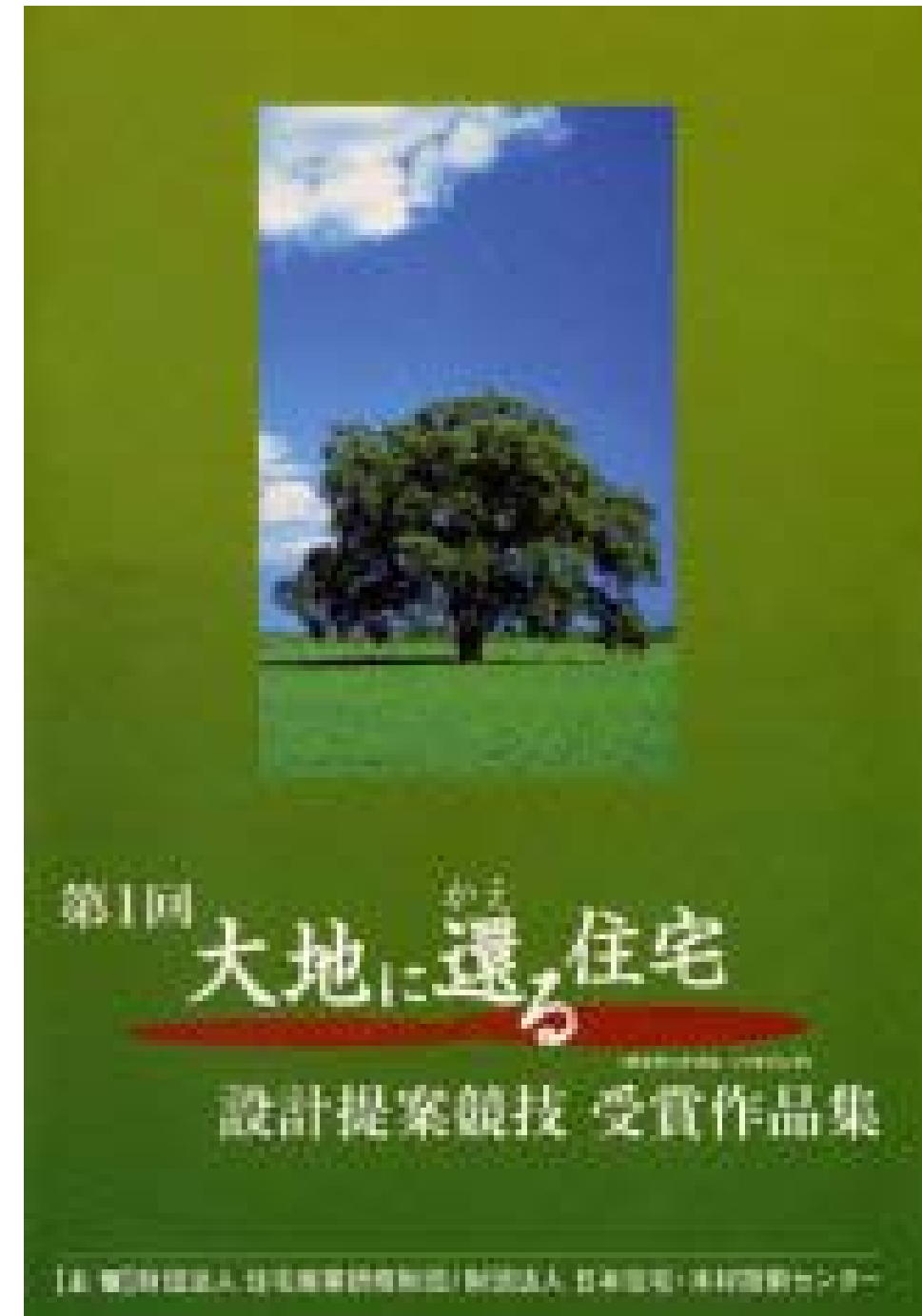
賞	応募責任者氏名	所属	都道府県	タイトル
優 秀 賞	小林良洋 (コバヤシ ヨシヒロ)	(株) アーク総合計画	東京都	森の家
	嶋村泰輝 (シマムラ ヤステル)	一級建築士事務所 アトリエ Bau	東京都	SUSTAINABLE HOUSING
	関 謙二 (セキ ケンジ)	(株) 石田組	長野県	大地に還る住宅
	高橋孝栄 (タカハシ コウエイ)	(株) 空間設計研究所	東京都	健康・耐久住宅
	高原正伸 (タカハラ マサノブ)	クリエイティブ デザイン カレッジ CDC 研究室	京都府	二人暮らしから始まる家
	田代 純 (タシロ ジュン)	田代純建築設計事務所	京都府	低層・高密度住宅地に於ける スモールパッシブソーラーハ ウスの試み
	當間一弘 (トウマ カズヒロ)	東京芸術大学美術研究科 修士課程 建築専攻	埼玉県	上に向かって空間を掘り続け る住宅
	西島正樹 (ニシジマ マサキ)	西島正樹 / (株) プライム	東京都	杉並の家
	野沢正光 (ノザワ マサミツ)	野沢正光建築工房	東京都	相模原の住宅
	林 慧次郎 (ハヤシ ケイジロウ)	(株) 林藤ハウジング	群馬県	安中の家
	柳川賢次 (ヤナガワ ケンジ)	柳川賢次建築設計事務所	兵庫県	大地に還る住宅
	横関正人 (ヨコゼキ マサト)	(有) ネオジオ	大阪府	寺内町の家
渡辺 治 (ワタナベ オサム)	(株) 渡辺治建築都市設計 事務所	神奈川県	共働住宅	

「大地に還る住宅」設計提案競技

第1回「大地に還る住宅」設計提案競技 受賞作品

佳作・・・9点

賞	応募責任者氏名	所属	都道府県	タイトル
佳作	上田 穰 (ウエダ ミノル)	無デザイン研究所	東京都	N-Project99
	上原芳春 (ウエハラ ヨシハル)	ふくぎ設計工房	沖縄県	やんばる型住宅
	大橋秀三 (オオハシ シュウゾウ)	大橋建築設計工房	新潟県	清里の舎
	小林伸吾 (コバヤシ シンゴ)	(株) 小林建設	埼玉県	秩父杉の家 / 本庄の家
	小山祐司 (コヤマ ユウジ)	(株) 榊住建	埼玉県	宿泊体験住宅「潮来の家」
	嶋田幸男 (シマダ サチオ)	(有) 七月工房	東京都	月見小路の家
	丸 英一 (マル エイイチ)	日本ホームズ (株) 設計・技術部	東京都	縁のある家
	宮里龍治 (ミヤサトリュウジ)	宮里龍治アトリエ	愛知県	平山の家
	若林由丈 (ワカバヤシ ヨシタケ)	若林建築設計事務所	長野県	大地に還る住宅



《「大地に還る住宅」提案競技の概要》

1. 目的

この提案競技は、循環型社会、持続可能な社会にふさわしい、環境への負荷を減らし、地域に根ざした総合的な住まいづくりを促進することを目的として実施するものである

2. 主催者

財団法人 住宅産業研修財団 財団法人 住宅保証機構 財団法人 日本環境財団

3. 後援

国土交通省、環境省、資源エネルギー庁、住宅金融公庫

4. 協賛

(財)日本住宅・木材技術センター、(財)ベターリビング、(社)プレハブ建築協会、
(社)日本木造住宅産業協会、(社)日本ハウズビルダー協会、
(社)全国中小建築工事業団体連合会、全国建設労働組合総連合、
(社)日本ツーバイフォー建築協会、日経アーキテクチュア、日経ホームビルダー、
日本住宅新聞

5. 提案協議の内容

1.) 提案の対象となる住宅

実際に建設されたもの、あるいは、アイデア段階のものでも実際に建設可能なものとする
日本の国内に建設される戸建て住宅とする（集団的に建設されるものを含む）
延べ面積 300 平方メートル以下とする

2.) 提案要素 以下の7つの理念に対する意欲的な提案を期待する

地球環境を大切にしたい住まい
気候・風土を活かした住まい
日本の伝統・文化を受け継ぎ人格形成の場となる住まい
高齢者や障害者が、自立して暮らせる住まい
生命を守る住まい
病気をつくらない住まい
財産を守る住まい

3.) 応募資格

応募資格の限定はしない

4.) 提出資料

提案協議申込書
提案趣旨説明書
図面等（A1判パネル1枚 表現は自由）

5.) 応募締切

平成12年11月27日（月） 消印有効

6.) 審査委員

委員長	小玉祐一郎	（神戸芸術工科大学教授）
委員	芦原 太郎	（建築家）
委員	坊垣 和明	（国土交通省建築研究所第5研究部長）
委員	松井 郁夫	（建築家）
委員	野城 智也	（東京大学助教授）

第2回「大地に還る住宅」（サステイナブル・ハウジング）提案競技の結果概要

平成13年1月25日（木）

財団法人 住宅産業研修財団／財団法人 住宅保証機構／財団法人 日本環境財団

財団法人住宅産業研修財団（理事長 松田妙子）、財団法人住宅保証機構（理事長 越智福夫）、財団法人日本環境財団（理事長 高見裕一）の3団体は、将来の循環型社会、持続可能な社会にふさわしい住宅、地域に根ざした住まいづくりへの関心を高めるため、第2回「大地に還る住宅」の提案競技を実施しました。（募集期間は平成12年6月から平成12年11月27日）

今回は259件の応募（資料請求1,943件）があり、先般、最優秀賞7作品、優秀賞15作品、計22作品を選定しました。今後、入賞作品集の公表や優れた提案の要素技術集の作成など、個々の提案の実現に向けて広報・普及に努めて参ります。

なお、選定結果は以下の通りです。

「大地に還る住宅」提案競技

国土交通大臣賞

応募責任者	井上博明
所属	竹中工務店
住所	東京都
タイトル	広がりをもつほんの小さな小屋
構造	木造+ RC 造
階数	3
延べ面積 (m ²)	139.77
所在地	東京都江戸川区

環境大臣賞

応募責任者	桑原雅明
所属	(株)ワークキューブ
住所	愛知県
タイトル	住まい手は時にはつくり手
構造	木造一部鉄骨造
階数	2
延べ面積 (m ²)	136.13
所在地	三重県伊勢市

《審査委員講評》

都市の中の狭小宅地の建て替えに対するひとつの提案。もともとの街のスケール感とコミュニティ意識を尊重しながら、低層高密度な都市の住み方を示す。農家の納屋(バーン)のようなシンプルな内部の空間構成とスケルトン - インフィルの考えを取り込んだ構造システムで、居住ニーズの変化に対応し、良好な住宅ストック形成をめざす。微気候に配慮し、風や太陽などの積極的な活用が計画されている。

《審査委員講評》

恵まれた敷地の自然環境を読み、その特性を生かして、のびやかで、親自然的な生活空間を実現している。日常の生活のなかで随時自然の息吹に触れ、自然の変化がもたらす快適さを享受できるような外部、内部の空間の構成は、住まい手のライフスタイルの変化に対する柔軟な対応をも可能にする。造成工事を極力避け、もともとの地形を残せるような構法の工夫も、建設による環境影響を小さくするための配慮として評価される。

資源エネルギー庁長官賞

応募責任者	松橋寿明
所属	M2 Architect Office
住所	長野県
タイトル	地域に定住する雁木の家
構造	木造一部 RC 造
階数	2
延べ面積 (m ²)	135.8
所在地	新潟県上越市

住宅金融公庫総裁賞

応募責任者	内田文雄
所属	(株)龍環境計画
住所	東京都
タイトル	新しい土の家
構造	木造在来工法
階数	2
延べ面積 (m ²)	155.21
所在地	岡山県岡山市

《審査委員講評》

豪雪地帯の街、住まいには、雪と共存するための伝統的なハード、ソフトの工夫が残されている。雁木による道へのアクセス、大きな室内空間を確保する大屋根など、独自の街なみ景観も生み出されてきた。そのような歴史的景観を残しながら、新しい技術を駆使して現代における快適室内空間をつくることは古くて新しいテーマだが、自然暖気の利用や、自然採光を生かした設計等、省エネルギーに資する工夫を取り入れるとともに、そこを積極的に展開。冬の雪の処理と夏への活用の一石二鳥を意図した雪室もそのひとつ。

《審査委員講評》

建築材料としての「土」の魅力がさまざまな観点から再評価されつつある。伝統材料の奥の深い魅力は感覚的に理解できても、解析が容易でないところもある。効能の解析は今後も進むだろう。ここでは温暖地の気候風土での土の室内気候調節特性を積極的に見出し、さらに耐久性、資源循環性、遮音性、健康性、テクスチャーなどの土の多面的な魅力を存分に引き出し、「新しい土の家」を提案している。

「大地に還る住宅」提案競技

住宅産業研修財団理事長賞

応募責任者	神家昭雄
所属	神家昭雄建築研究室
住所	岡山県
タイトル	白石の栖
構造	木造
階数	2
延べ面積 (m ²)	105.75
所在地	岡山県岡山市

住宅保証機構理事長賞

応募責任者	於保泰正
所属	フジコンサルタント (株)
住所	佐賀県
タイトル	土に還る家
構造	木造
階数	1
延べ面積 (m ²)	190.32
所在地	佐賀県神埼郡

《審査委員講評》

建物の寿命が長くなると、用途の変更に
対する配慮も必要になってくる。近未来の
建築の課題のひとつだ。これは、築 60 年
の農家の納屋をデザイン事務所に転用し、
将来はさらに住宅に転用するというシナリ
オで進行中の計画である。木材、土、漆喰、
紙などの自然素材を多用した改造は、建設
ごみ量の軽減にも貢献している。瀬戸内の
気候風土、田園風景に馴染み、その良さを
楽しめる住宅になるだろう。

《審査委員講評》

伝統的な木造住宅の良さを、「大地に還る」
という点から再評価するとともに、新しい
技術を付加して充実させた。資源循環性、
気候への適合性という観点から見ても、伝
統的な材料・構法にはなお新しい発見があ
り、未来へのヒントがある。そのことを改
めて感じさせる巧みな表現には説得力があ
る。それが現代の都市やその郊外の住宅で
どのように生かせるか、さらなる展開にも
期待したい。

日本環境財団理事長賞

応募責任者	井村正和
所属	moot design studio
住所	東京都
タイトル	再生コンクリート・壁式構造による 都市型 S I 建築
構造	RC 壁式構造
階数	3
延べ面積 (m ²)	105.53
所在地	東京都世田谷区

《審査委員講評》

建設廃棄時に出る廃材の再利用、再生利
用は資源循環の上での重要なポイントだ。
再生コンクリートはそろそろ実用段階にあ
るが、それを積極的に活用したスケルトン
インフィル型の住宅の提案である。このア
イデア自体は新しいものではないが、具体
的な敷地を設定して、地域の特性を読み、
現実的な条件を満足させながら、建物用途
の変更にも配慮した計画プロセスが評価さ
れる。

「大地に還る住宅」提案競技

賞	応募責任者氏名	所属	都道府県	タイトル	構造	階数	延べ面積	所在地
優 秀 賞	江川直樹	現代計画研究所	大阪府	今田町の家	土台 鉄骨造 上屋木	2	142.56	兵庫県多紀郡
	江角俊則	(有)江角建築事務所	島根県	Less is Susustainability	木造	2	150	島根県出雲市
	金澤重雄	カナザワ建築設計事務所	茨城県	半地下の エコハウス	1階 RC造 2階木造	2	156.4	茨城県水戸市
	河合 了	(株)木の城たいせつ	北海道	北海道の大地に 還る100年住宅	木造 (1階は RC造)	3	289.83	北海道夕張郡 栗山町
	佐藤幸好	佐藤建築企画設計	徳島県	上勝パネル住宅	木造	2	157.91	徳島県勝浦郡
	杉山ふじ子	杉山アトリエ	宮城県	ペレの あたらしいふく	補強コン クリート ブロック	2	85.9	宮城県仙台市 青葉区
	高木淳二	高木富士川計画事務所	熊本県	松巖亭 版築構法	木造	2	234.65	熊本県熊本市
	田中勝昭	アトリエあすか	秋田県	秋田のすまい	木造	2	175.95	秋田県秋田市
	田辺 武	金沢工業大学大学院	石川県	大地に還る住宅	鉄筋コン クリート 造	3	197	石川県金沢市
	塚原和嘉穂	AEG 設計研究所	長野県	田舎暮らしの すすめ	RC造木 造混構造	2+ B1	240	長野県北安曇郡 松川村
	西方里見	西方設計	秋田県	大地に還る 町営住宅	木造	2		秋田県山本郡
	平林正博	(株)アール・アイ・エー	奈良県	大地に還る住宅	RC造+ 木造	2	250.12	和歌山県有田市
	邊見浩久	鹿島建設(株)	神奈川県	鎌倉・由比ガ浜 の家	木造	2	195	神奈川県鎌倉市
	武藤 清	環境持続住宅研究会	東京都	つくばに立つ 『環境持続住宅』	木造	2	130	茨城県つくば市
横関正人	(有) NEOGEO	大阪府	中庄の家	木造	2	136.5	岡山県倉敷市	



第3回「大地に還る住宅」（サステイナブル・ハウジング）提案競技の概要

1. 目的

この提案競技は、将来の循環型社会、持続可能な社会にふさわしい住宅として、地域に根ざした総合的な住まいづくりへの関心を高めることを目的として実施するものである

2. 主催者

財団法人 住宅産業研修財団

財団法人 住宅保証機構

財団法人 省エネルギーセンター

3. 後援

国土交通省

資源エネルギー庁

住宅金融公庫

4. 協賛

(財) 日本環境財団

(財) 日本住宅・木材技術センター

(財) ベターリビング (社) プレハブ建築協会

(社) 日本木造住宅産業協会 (社) 日本ツーバイフォー建築協会

(社) 全国中小建築工事業団体連合会 全国建設労働組合総連合

5. 提案競技の内容

1.) 提案の対象となる住宅

- 戸建て住宅（集合的に建設されるものを含む）。
- 実際に建設されたもの、建設予定のもの、あるいは、アイデア段階のもので実際に建設可能なもの。既に建設されたものについては、1995年1月1日以降に竣工したものを対象とする。民家などの改修・再生も対象とする。
- 立地条件は自由。ただし国内に限る。
- 延べ面積は100平方メートル以上300平方メートル以下とする。

2.) 提案要素

以下の7つの理念に対する意欲的かつ具体的な提案をすること。建設対象地域の自然環境・社会環境（町並みの特徴など）の特性を十分に読み取り、地域的特性を示して、提案に反映させること。

- 地球環境を大切にしたい住まい。
- 気候・風土を活かした住まい。
- 日本の伝統・文化を受け継ぎ人格形成の場となる住まい。
- 高齢者や障害者が、自立して暮らせる住まい。
- 生命を守る住まい。
- 病気をつくらない住まい。
- 財産を守る住まい。

3.) 応募資格

応募資格の限定はしない（既に発表された作品のうち、他競技で受賞した作品は除く）。

4.) 提出資料

- 提案競技申込書
- 提案趣旨説明書
- 図面等

体裁・・・A1判ヨコ1枚、裏に厚紙等を使いパネル化すること。

条件・・・必ず平面図・立面図・断面図を用いて、対象となる建物が7つの理念を満たしていることを説明すること。表現方法は自由。

応募作品の裏に（1）、（2）のコピーを貼って提出すること。

5.) 応募締切

平成13年12月3日（月）消印有効

6.) 審査委員

委員長	小玉祐一郎	(神戸芸術工科大学教授)
委員	芦原 太郎	(建築家)
委員	坊垣 和明	(独立行政法人 建築研究所研究調整官)
委員	松井 郁夫	(建築家)
委員	野城 智也	(東京大学教授)

「大地に還る住宅」提案競技

第3回「大地に還る住宅」（サステナブル・ハウジング）提案競技の結果概要

平成 14 年 2 月 22 日（金）
財団法人 住宅産業研修財団
財団法人 住宅保証機構
財団法人 省エネルギーセンター

財団法人住宅産業研修財団（理事長 松田妙子）、財団法人住宅保証機構（理事長 越智福夫）、財団法人省エネルギーセンター（会長 那須 翔）の3団体は、将来の循環型社会、持続可能な社会にふさわしい住宅、地域に根ざした住まいづくりへの関心を高めるため、第3回「大地に還る住宅」の提案競技を実施しました。

今回は 237 件の応募（資料請求 945 件）があり、その中より、最優秀賞 6 作品、優秀賞 12 作品、計 18 作品を選定し、表彰式を行いました。

選定結果、受賞作銀の画像、及び表彰式の様子等は以下をご覧ください。

《選定結果》

国土交通大臣賞	石田 正年
資源エネルギー庁長官賞	奥田 徹
住宅金融公庫総裁賞	神家 昭雄
住宅産業研修財団理事長賞	松田 博司
住宅保証機構理事長賞	大角 雄三
省エネルギーセンター会長賞	網田 一久
	（敬称略）
優秀賞	12 名

《表彰式》

日 時：平成 14 年 2 月 22 日（金） 15：30～
会 場：住宅金融公庫 「すまい・るホール」

《表彰式の様子》



「大地に還る住宅」提案競技



国土交通大臣賞

応募責任者 石田正年

所属 (株)自由工房 静岡事務所

応募者住所 静岡県

タイトル 住み継ぐ家

構造 木造

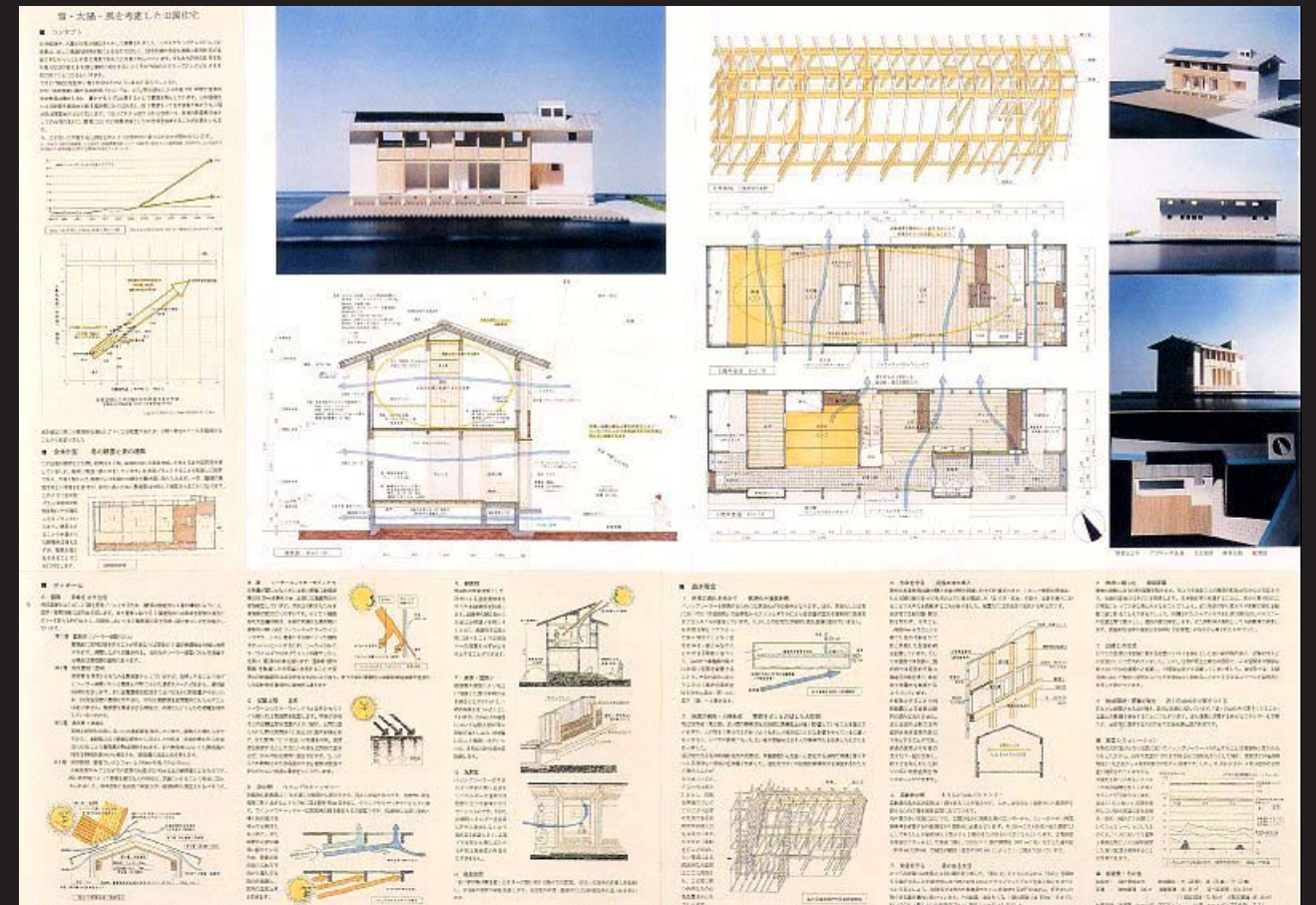
階数 2

延べ面積 (㎡) 297.2

建物の所在地 静岡県庵原郡蒲原町

《審査委員講評》

蒲原の旧街道筋の民家の再生。80年を経た住宅に潜む「良さ」を再発見し、それを少しでも増幅するように現代の知識や技術や材料を入れ、丁寧につくられている。風や光を導き、自然の快適さを引き出す設計の原理は昔と同じだが、それを増幅するために工夫された細部の蓄積は例えば、実に多様な開口部のデザインに見られる。どのように開け、どのように閉めるか、季節に応じた多様な組み合わせが想像できる。ストックされているのは部材だけではなく住み方の文化もまた。



資源エネルギー庁長官賞

応募責任者 奥田 徹

所属 奥田設計室

応募者住所 福井県

タイトル 雪・太陽・風を考慮した田園住宅

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 154.2

建物の所在地 福井県勝山市

《審査委員講評》

福井の気候を十分に読み取り、さまざまなパッシブな設計上の工夫を地道に積み重ね、着実にまとめあげている。設計段階で熱環境の性能チェックをし、設計にフィードバックするというやり方にも好感がもてる。ただ、建設中という事情もあるだろうが、建物の周辺の環境との関係が示されていないのがやや残念。シンプルな空間構成は、地元産の杉材を多用した工法上の工夫の成果でもある。

「大地に還る住宅」提案競技



住宅金融公庫総裁賞

応募責任者 神家昭雄

所属 神家昭雄建築研究室

応募者住所 岡山県

タイトル 里山の暮らしを楽しむ家

構造 木造

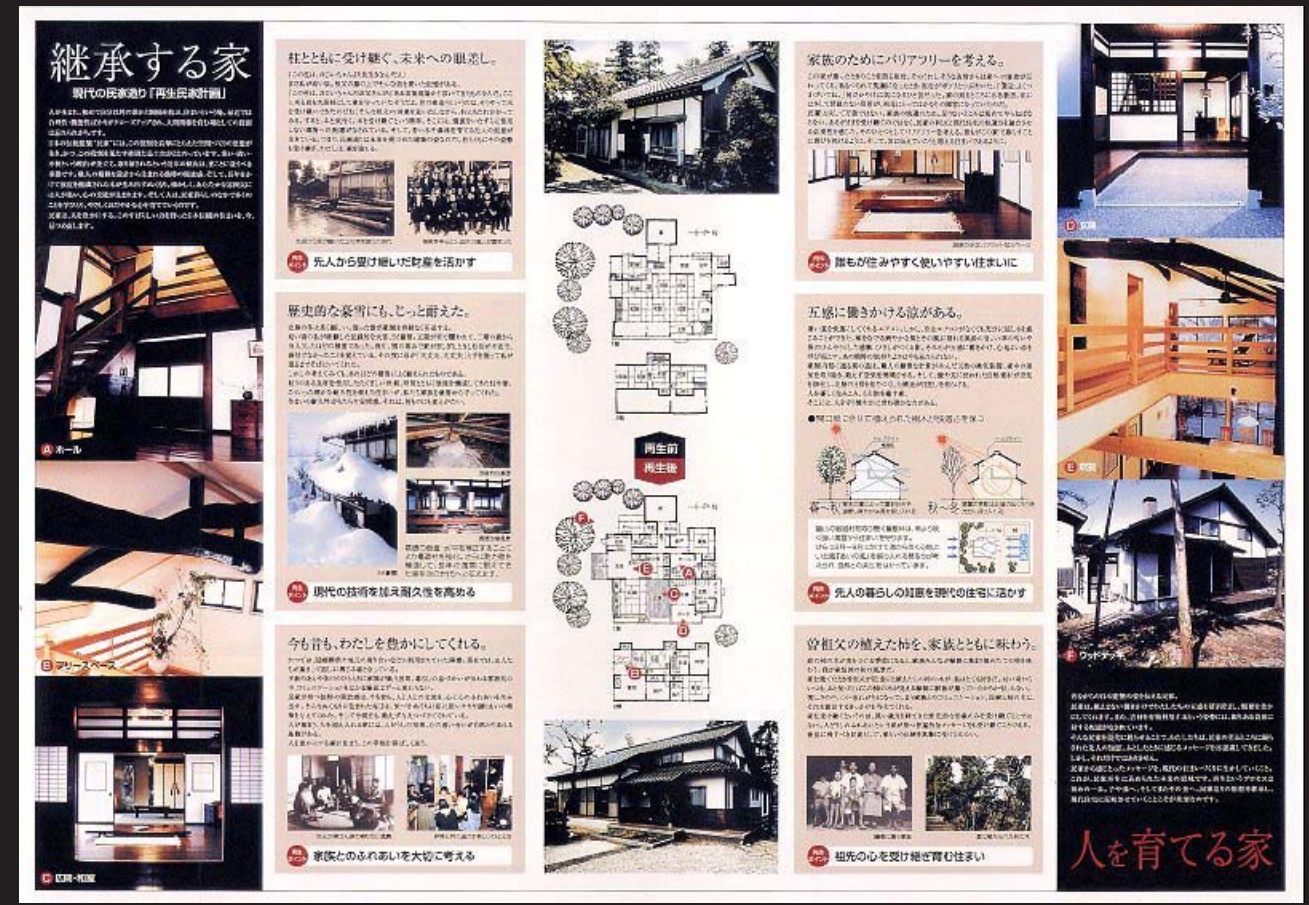
階数 2

延べ面積 (㎡) 216.4

建物の所在地 岡山県久米郡中央町

《審査委員講評》

温暖地の穏やかな気候、恵まれた敷地の自然環境の特性を生かして、のびやかで、親自然的な生活空間が実現されている。里山の暮らしを楽しむ仕掛けが随所に仕込まれている。日常の生活のなかで自然の息吹に触れ、その自然の変化がもたらす快適さを楽しむような空間の構成は、住まい手のライフスタイルともよくマッチしていて楽しそうだ。地元産の木材をはじめ自然素材の良さが巧みに活かされている。



住宅産業研修財団理事長賞

応募責任者 松田博司

所属 (株) 松田工務店

応募者住所 富山県

タイトル 継承する家・人を育てる家

構造 木造

階数 2

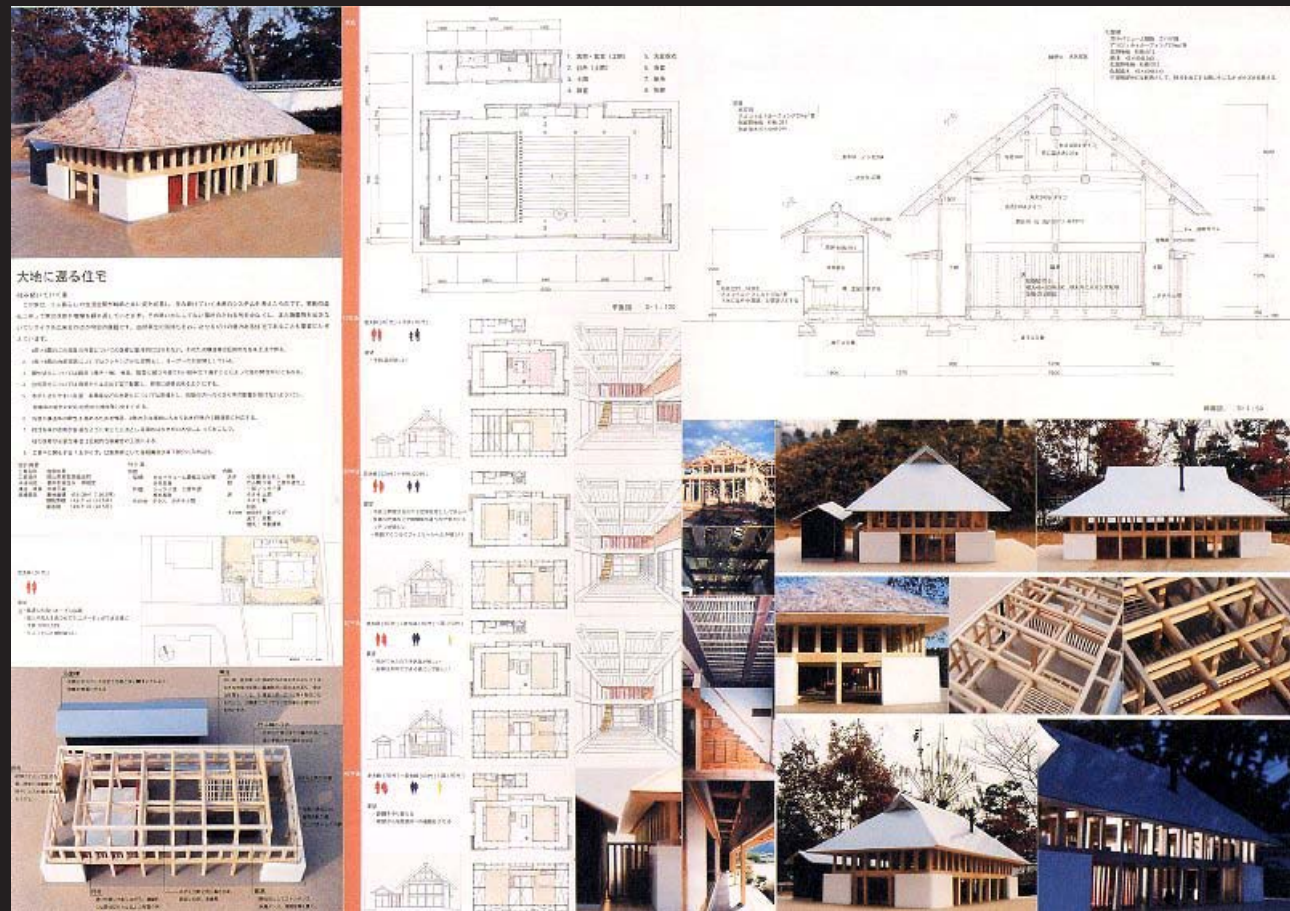
延べ面積 (㎡) 263.9

建物の所在地 富山県富山市

《審査委員講評》

「暗さ」、「寒さ」は寒冷地の民家の克服すべき課題として語られながら、ながら解決策を見い出せなかった。そのような欠点が、夏の利点と裏表になっていたりと、部材の耐久性や民家固有の美しさを損なうと懸念されてきたからでもある。ようやくそれらが両立するほどに建築技術が成熟して来たともいえる。屋敷林の配置など砺波平野の気候を読み、民家の知恵を引き継ぎながら、現代の家族の器にふさわしい空間を作り出した。

「大地に還る住宅」 提案競技



住宅保証機構理事長賞

応募責任者	大角雄三
所属	大角雄三設計室
応募者住所	岡山県
タイトル	大地に還る住宅
構造	木造
階数	2
延べ面積 (㎡)	143.7
建物の所在地	岡山県和気郡佐伯町

《審査委員講評》

太いがっちりした部材によるシンプルな柱梁の構造は、時間の経過と共に変化する室内の空間構成を見越したものだ。住み手のニーズにあわせて、無理なく改修工事が可能で、結果として寿命の長い住宅となる。木造のスケルトン・インフィル構法ともいえるが、これは、伝統的な工法の特徴でもあった。瀬戸内の温暖な気候の特性にあわせた開放的なプランだが、日射や風、雨や湿気に対しては周到的な配慮がされている。



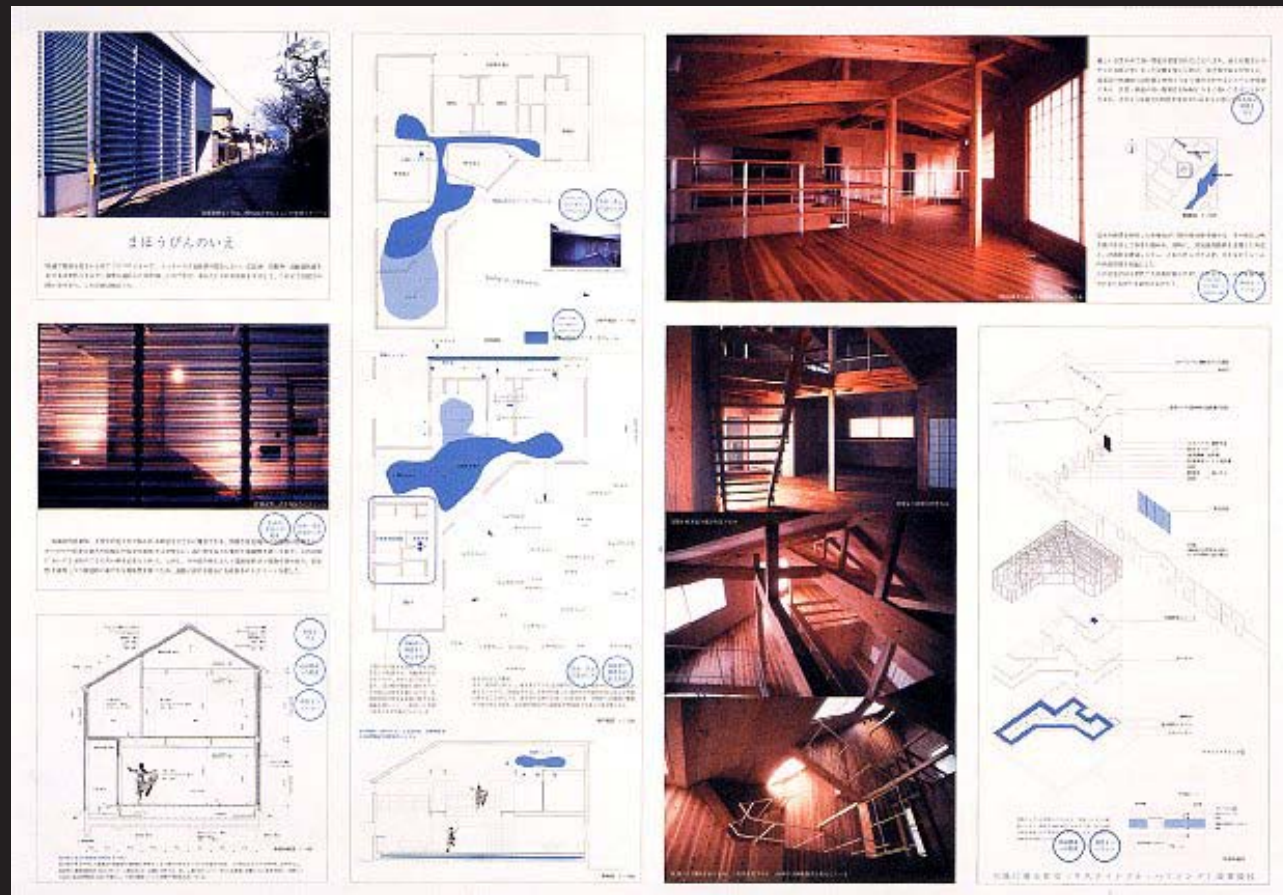
省エネルギーセンター会長賞

応募責任者	網田一久
所属	(株) 安成工務店
応募者住所	山口県
タイトル	長屋門のある家 in やまぐち
構造	木造
階数	2
延べ面積 (㎡)	169.6
建物の所在地	山口県熊毛郡田布施町

《審査委員講評》

地元産木材を多用し、その特徴を活かす工法によって、木造住宅の魅力にあふれた室内空間を創り出している。また、太陽エネルギー利用の新しい技術と自然を取り入れる建築的な工夫が無理なく統合され、セルロースファイバーの使用などきめ細かい環境への配慮もされている。新興住宅地にありながら、積極的に街なみ景観の形成を意図した意欲も評価されるが、今後その成果がどのように現われるか。

「大地に還る住宅」提案競技



優秀賞

応募責任者 中村勇大

所属 中村勇大アトリエ 一級建築士事務所

応募者住所 京都府

タイトル まほうびんのいえ

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 238.9

建物の所在地 京都市左京区



優秀賞

応募責任者 若林由丈

所属 若林由丈建築設計事務所

応募者住所 長野県

タイトル 農家住宅

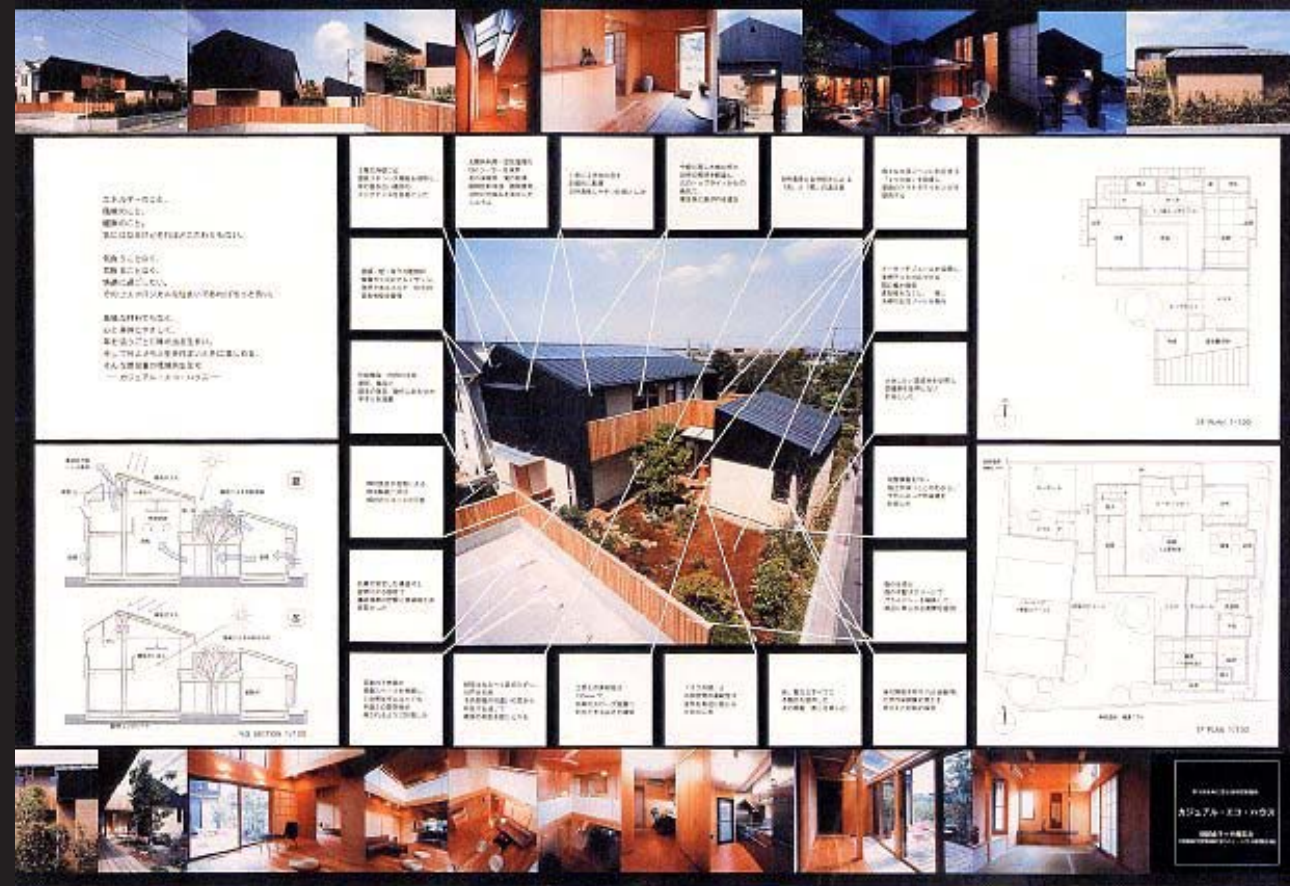
構造 1F RC造+2・3F木造

階数 3

延べ面積 (㎡) 243.7

建物の所在地 長野県埴科郡坂城町

「大地に還る住宅」 提案競技



優秀賞

応募責任者 相越直子

所属 相越直子建築設計室

応募者住所 東京都

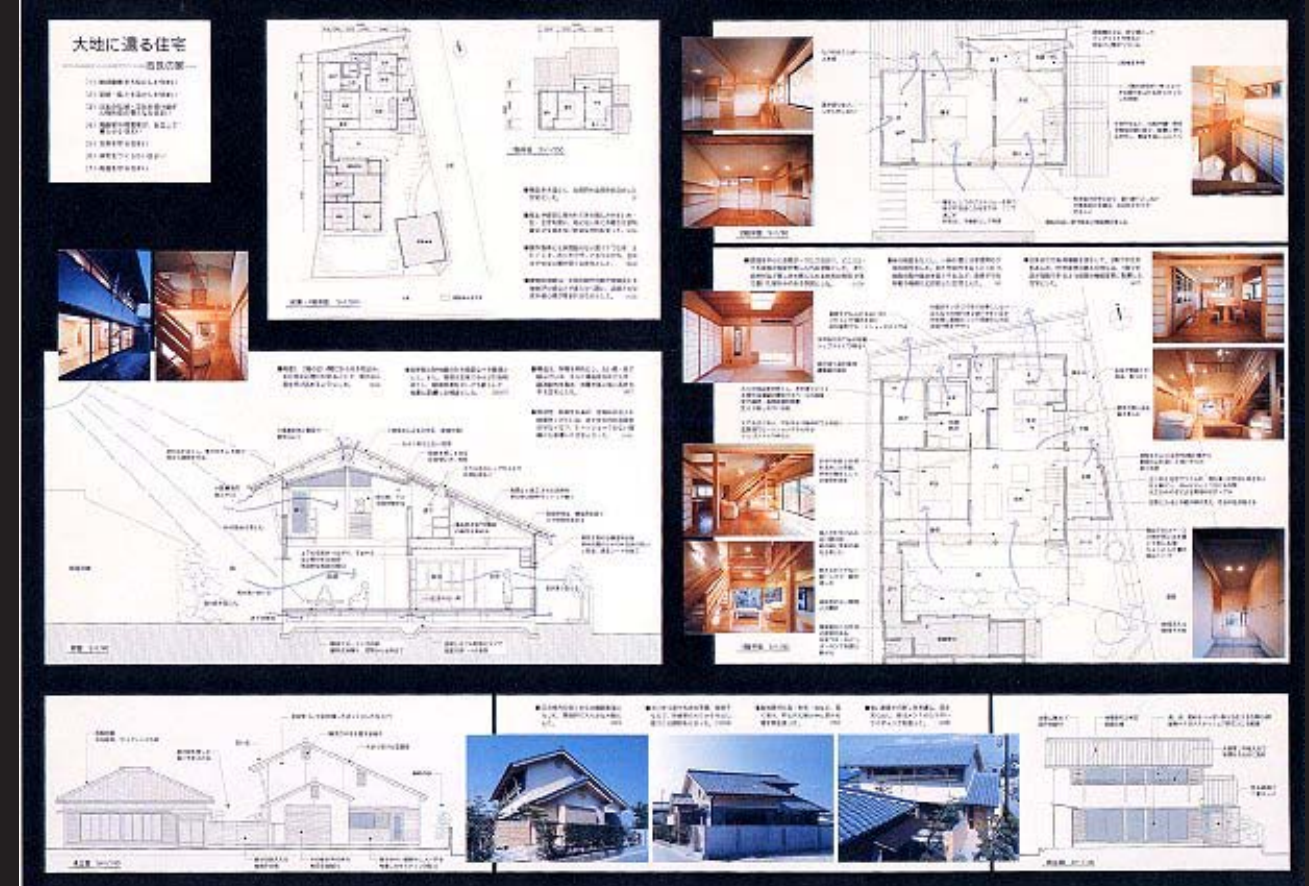
タイトル カジュアル・エコ・ハウス

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 162.5

建物の所在地 東京都杉並区



優秀賞

応募責任者 根村美知代

所属 根村修建築研究室

応募者住所 愛知県

タイトル 吉良の家

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 138.7

建物の所在地 愛知県幡豆郡吉良町

「大地に還る住宅」提案競技



優秀賞

応募責任者 小山泰弘・桂子

所属 施主

応募者住所 長野県

タイトル わが家 (大地に還る家に住む)

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 139.3

建物の所在地 長野県塩尻市



優秀賞

応募責任者 荒木憲子・深川良治

所属 グリーンコープ生協・深川良治建築計画研究室

応募者住所 福岡県

タイトル 大地と光をかかえこむ家

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 102.9

建物の所在地 福岡県福岡市西区

「大地に還る住宅」提案競技



優秀賞

応募責任者 宇野友明

所属 宇野友明建築事務所

応募者住所 愛知県

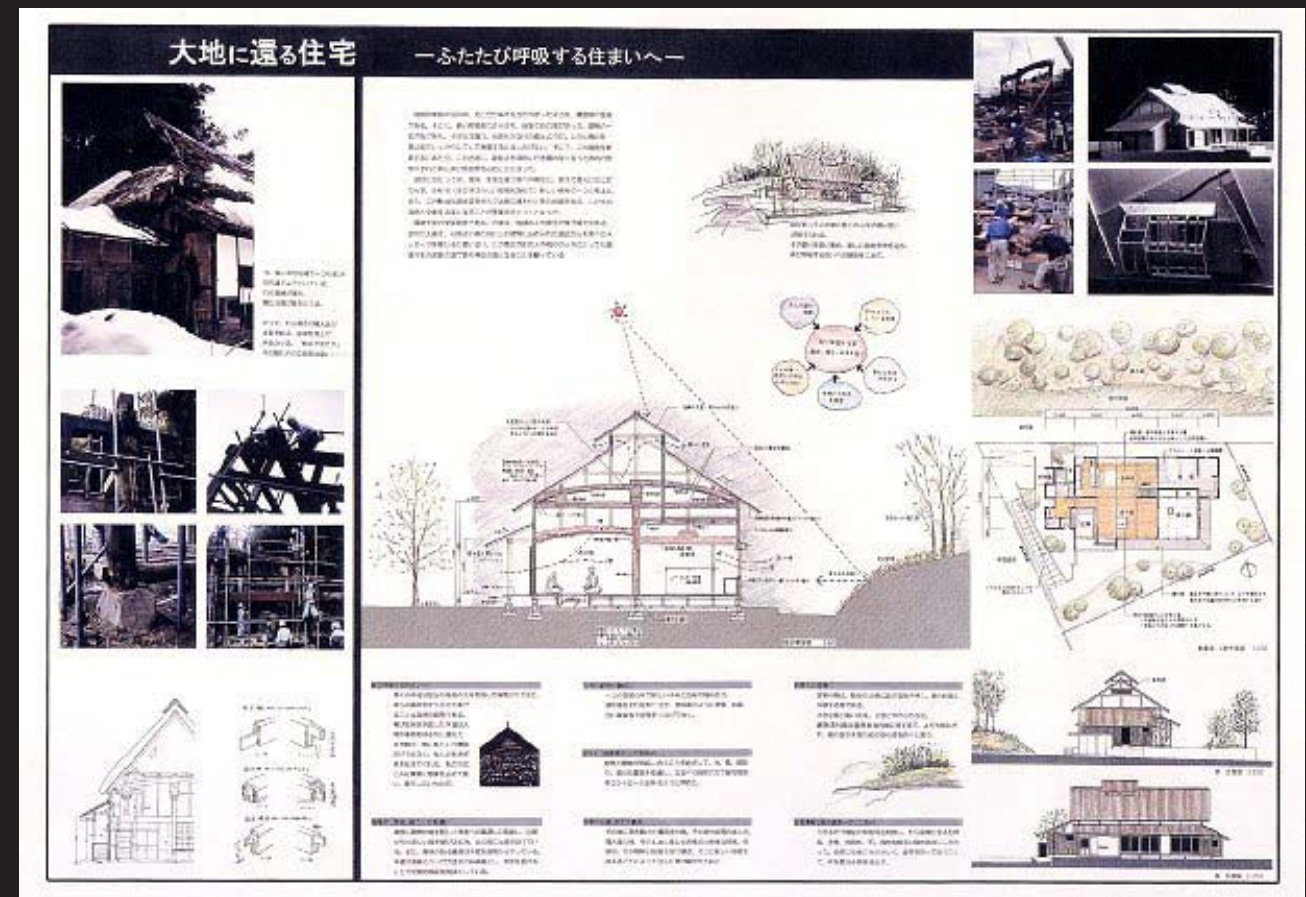
タイトル 大地に還る住宅

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 153.0

建物の所在地 愛知県岡崎市



優秀賞

応募責任者 木下正昭

所属 (有) 木下建築研究所

応募者住所 鳥取県

タイトル ふたたび呼吸する住まいへ

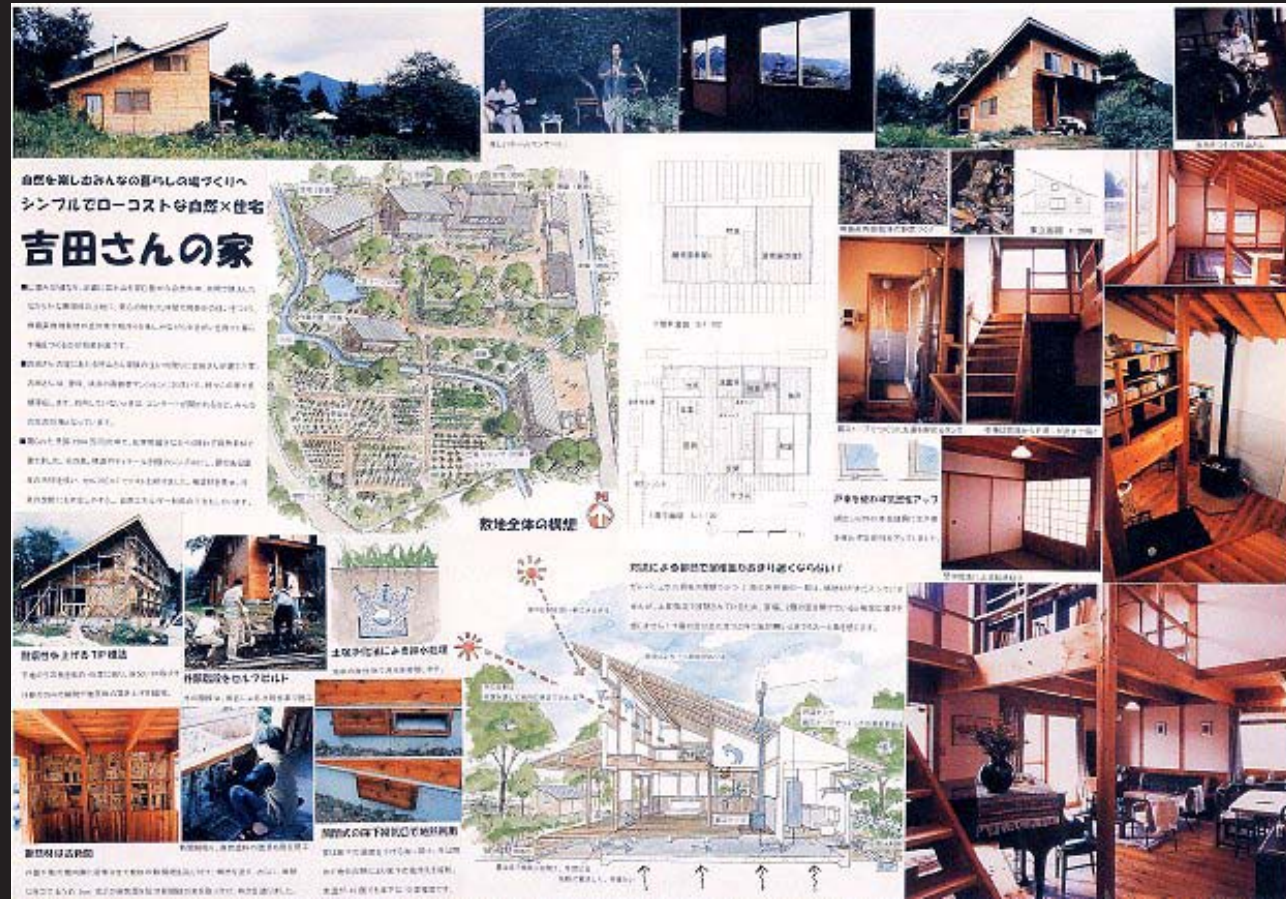
構造 木造

階数 1

延べ面積 (㎡) 143.2

建物の所在地 鳥取県鳥取市

「大地に還る住宅」提案競技



優秀賞

応募責任者 関谷真一

所属 一級建築士事務所 結設計室

応募者住所 東京都

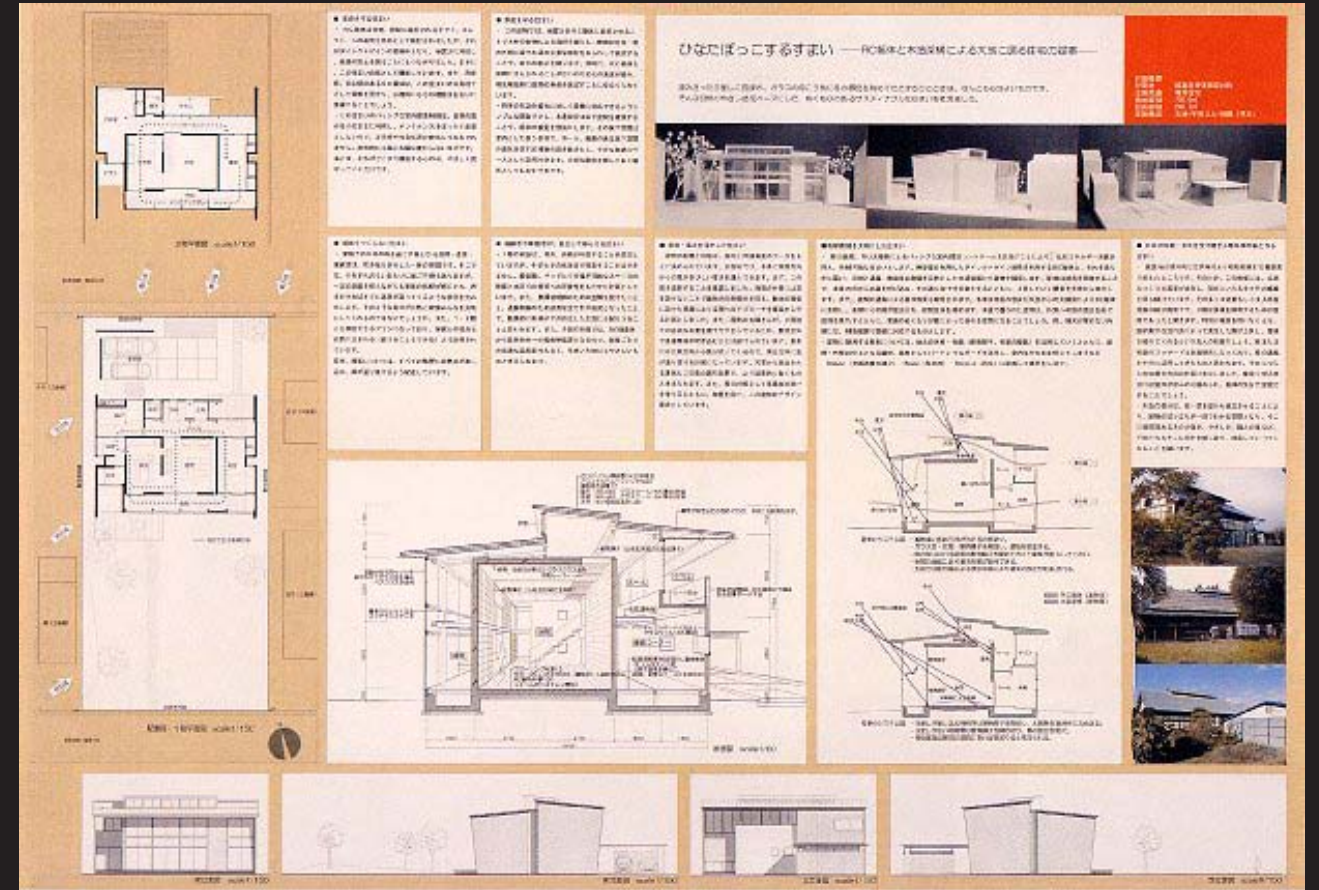
タイトル 吉田さんの家

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 104.0

建物の所在地 山梨県東山梨郡牧丘町



優秀賞

応募責任者 田中直樹

所属 田中直樹設計室

応募者住所 福島県

タイトル ひなたぼっこするすまい

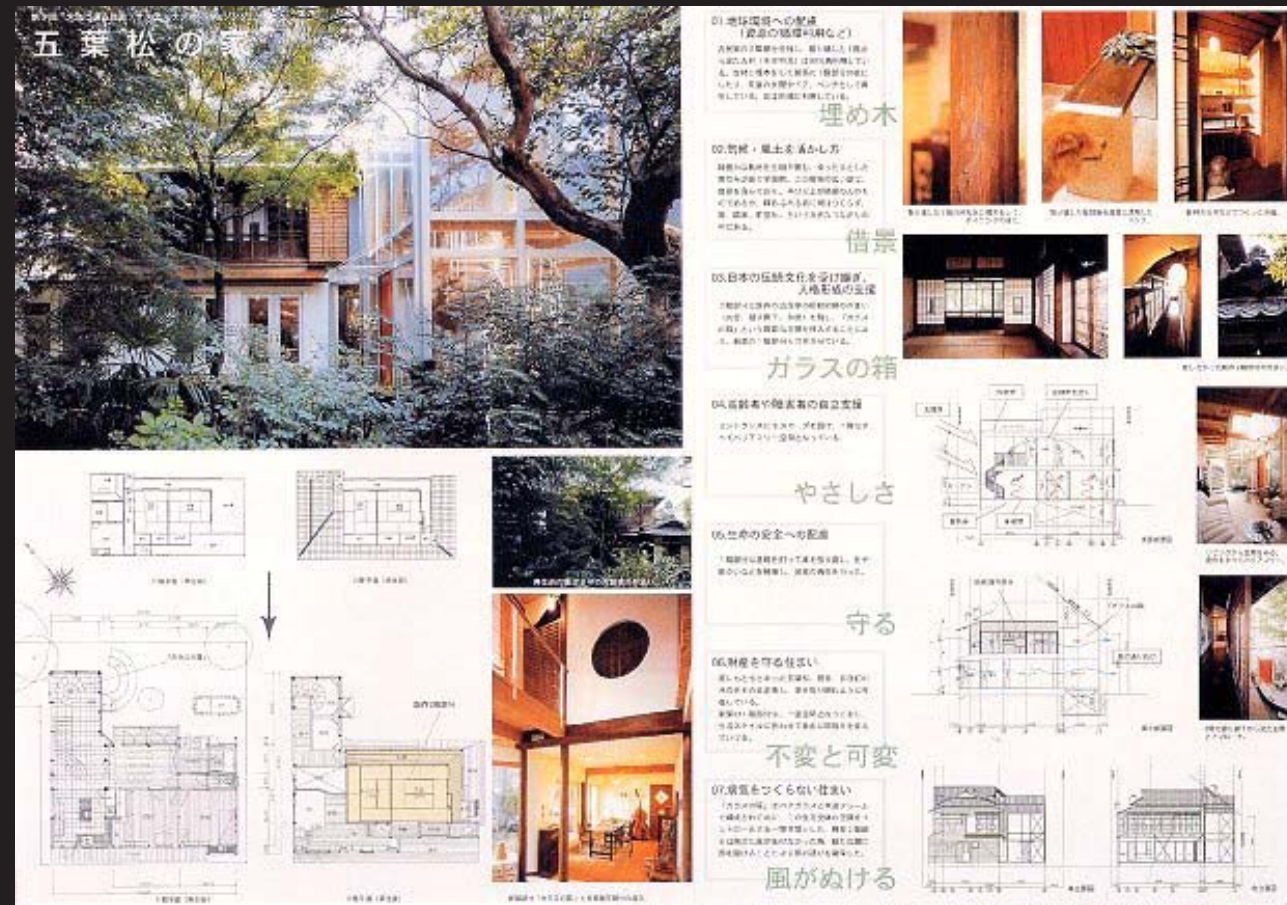
構造 RC造+木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 240.7

建物の所在地 福島県伊達郡梁川町

「大地に還る住宅」提案競技



優秀賞

応募責任者 小宮成元

所属 TAU 設計工房

応募者住所 東京都

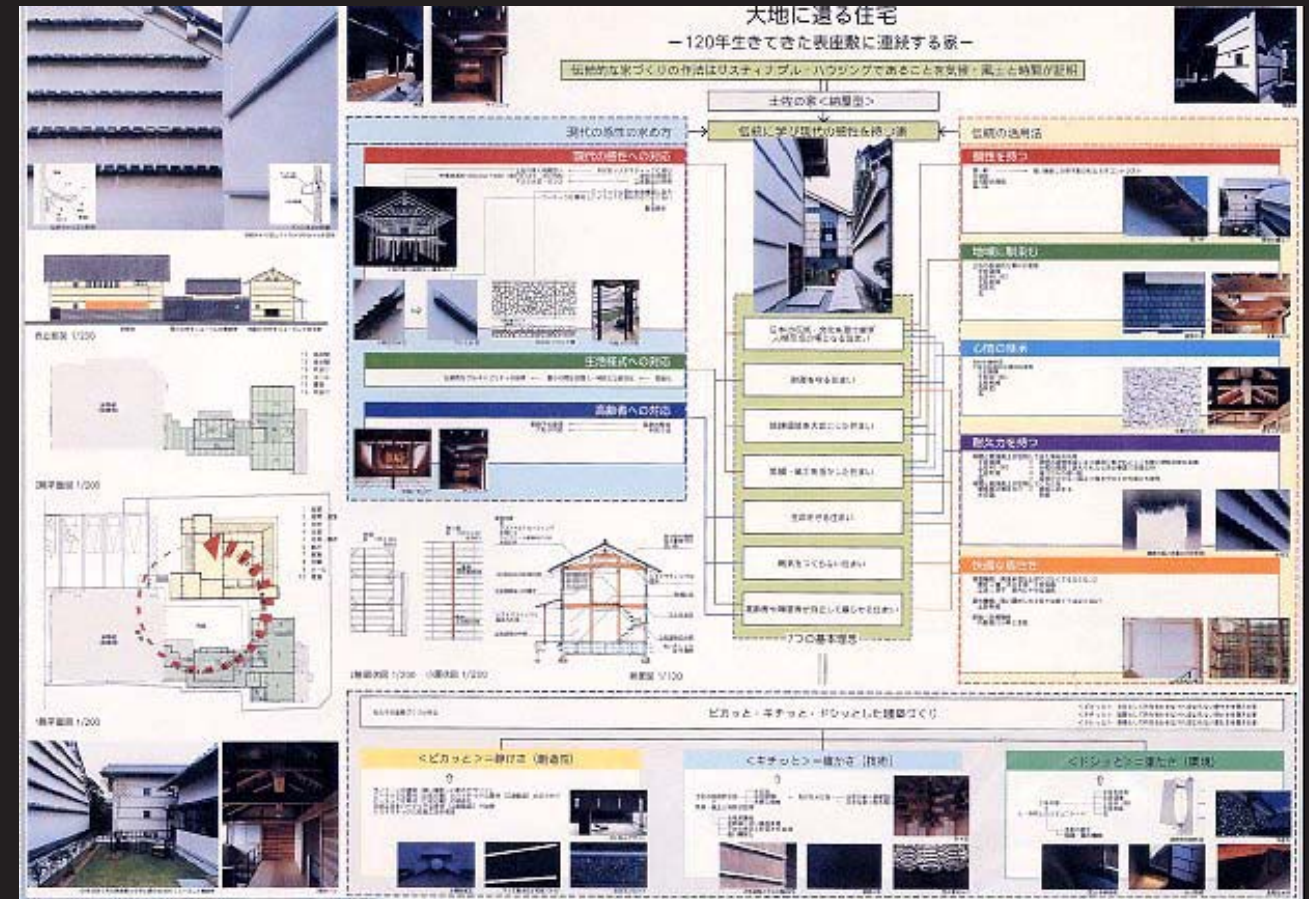
タイトル 五葉松の家

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 156.9

建物の所在地 東京都東久留米市



優秀賞

応募責任者 上田堯世

所属 (資) 上田建築事務所

応募者住所 高知県

タイトル 120年生きてきた表座敷に連続する家

構造 木造

階数 2

延べ面積 (㎡) 167.2

建物の所在地 高知県安芸市